

近世の開幕と貨幣統合

——三貨制度への道程——

高木 久史 著

▶A5判・300頁／定価:本体 6,500円(税別)

ISBN: 978-4-7842-1902-5

2017年8月刊行

歴史上には、かつて数々の貨幣(通貨)統合が存在した。日本においては、「三貨制度」と呼ばれる貨幣様式の統一が知られている。16世紀に民間で自生的に成立した貨幣システム(金貨・銀貨・銭)をベースに、信長・秀吉・家康政権の時代を通じて、近世的な貨幣統合が政策的に達成された。本書は、地域別の定点観測的な事例研究に基づき、その統合過程を復元しようという試みである。

現在の貨幣システムや貨幣統合を考えるためのヒントが、近世開幕期にある。

●内容目次●

序章 問題の所在——三貨制度の形成過程を考える

第1章 交通集中点に生まれた近世的銭統合の萌芽——近江の状況(一)

第2章 金・銀普及と羽柴秀次のインフラ整備——近江の状況(二)

第3章 江戸幕府の貨幣統合政策と彦根藩の対応——近江の状況(三)

第4章 東西結節点に見られる近世への傾斜——紀伊の状況

第5章 もう一つの東西結節点はどう特殊か?——伊勢の状況

第6章 京都隣接地域の独自性・共時性——摂津の状況

第7章 生野銀山を挟む南北の対称性——播磨・但馬の状況

第8章 毛利領国における銭の未統合——出雲の状況

第9章 瀬戸内海南岸の銭秩序——伊予・讃岐の状況

第10章 江戸幕府に先行する銭生産——九州北部の状況

第11章 国産銭に関する江戸開幕以前の法制

第12章 紙幣前史——中世手形類の技術的到達点

第13章 近世貨幣統合の経緯を振り返る

終章 三貨制度成立過程の政策史的ロードマップ

補章 醍醐寺僧房玄は銭の夢を見る

たかぎ・ひさし… 1973 年大阪府生。1996 年神戸大学文学部卒業。2005 年神戸大学大学院人文学研究科修了、博士(学術)。織田町歴史資料館(町村合併により越前町織田文化歴史館と改称)学芸員を経て、現在、安田女子大学文学部准教授。主著に『日本中世貨幣史論』(校倉書房、2010 年)、『通貨の日本史』(中央公論新社、2016 年)。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 fax.075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	近世の開幕と貨幣統合—三貨制度への道程—		本体6,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1902-5
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	☐ 書店経由(このちらしを書店にお渡し下さい) ☐ 代引(書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)			本書HPのQRコード	書店番線印

日本近世貨幣史の研究

安国良一著

日本の歴史上、近世ほど多種の貨幣が流通した時代はない。金銀貨という幕府制定の「三貨」、近世初頭の大名領国にみられる金銀貨「領国貨幣」、藩札や私札の紙幣などを加えればその数は膨大。近世貨幣はどのように生まれ、流通し、終焉をむかえたのか。一国一通貨という貨幣観を解きほぐし、その独自の機能や意味づけを問いなおす良著。
▶A5判・320頁／本体6,800円(税別) ISBN978-4-7842-1848-6

近世日本の銅と大坂銅商人

今井典子著

近世日本は世界でも有数の銅輸出国であり、銅は長崎貿易の重要な輸出品であった。その最大市場である大坂の銅商人社会が成立・変容する過程を軸にして、銅の生産・流通の歴史を通覧。住友家文書や初村家文書など関連史料を丁寧に読み解き、長崎貿易の動向・幕府の統制・相場の変動なども視野に入れながら論じた本邦初の銅の近世通史。
▶A5判・316頁／本体7,500円(税別) ISBN978-4-7842-1805-9

※住友史料叢書

小葉田淳・朝尾直弘監修／住友史料館編

1620年代から大坂で銅の精錬を業とし、一時世界銅産市場においても重要な位置を占めた住友家は、その後金融・貿易などをも手がけ、近代の財閥につながる豪商の一典型である。その鉱業史料は、質・量ともにわが国屈指の基本史料であり、本叢書は1万数千点にのぼる近世史料のうち重要で継続する記録類を中心に編集。
▶A5判・平均400頁／既刊31冊 揃本体286,500円(税別)

※日本銅鉱業史の研究

小葉田淳著

金銀山の個別の史的研究を集成した、『日本鉱山史の研究』(学士院賞)、『続日本鉱山史の研究』につづく本書には、足尾・面谷・別子など日本を代表する鉱山の個別の史的調査研究に加え、付篇として産銅に関する近世の銅貿易と鑄銭についての論稿を収めた。
▶A5判・868頁／本体19,000円(税別) ISBN4-7842-0760-0

住友別子鉱山史 [全3巻]

小葉田淳総監修

上巻では元禄4年の開坑より明治32年、いわゆる旧別子時代の終わるまでを取り扱い、下巻はそれ以後閉山するまでと更にその後の補遺を記述し、別巻は別子銅山史上の事跡を理解する助けとなる図版・写真・史料等を収載した。開坑300年記念出版。
▶B5判・総1500頁／本体73,000円(税別) ISBN4-7842-0643-4

※長崎奉行の研究

鈴木康子著

17世紀後期から18世紀中期の約100年間の、長崎奉行の職掌や幕府内における長崎奉行の位置づけの変化、そして長崎奉行自体の特質が変質してゆく状況を解明し、その背景となる幕府の経済政策の推移や、日本側の外国人に対する意識の変化などについても考察を加える。
▶A5判・420頁／本体6,200円(税別) ISBN978-4-7842-1339-9

朱印船貿易絵図の研究

菊池誠一編

17世紀の日本と東南アジアの交易や、ベトナムの港町ホイアンに存在した「日本町」の様子を描いた二つの絵図「茶屋交趾貿易渡海絵図」「朱印船交趾渡航図巻」の精細なカラー図版に、美術史・歴史学および考古学など多彩な研究者による6篇の論考を収録。
▶A4判横綴・104頁／本体7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1712-0

江戸時代唐船による日中文化交流

松浦章著

[オンデマンド版]

鎖国政策下の江戸時代において、「唐船」と呼ばれる中国帆船の往来が日中文化交流の大動脈を担い、長崎を窓口とした「唐船」による通商関係は、舶来文化の受容において重要な役割を果たした。本書は日中双方の史料を用いることで、日本側の視点のみから論じられることの多い長崎貿易の一面を多角的に論じる。
▶A5判・474頁／本体9,800円(税別) ISBN978-4-7842-7011-8

※貨幣と鉱山

小葉田淳著

日本経済史研究の泰斗が中世から近世にいたる貨幣と鉱山に関する論考を集成。【内容】近世、銀・金の海外流出と銅貿易の動向／日本中近世の貨幣事情／領国武田氏の幣制と家康の幣制の確立／佐渡鑄造の金銀貨、とくに印銀通用について／近世鉱山史料について／近世鉱山経営と藩の統制／近世、日向・椎葉山の銅山について 他
▶A5判・300頁／本体7,800円(税別) ISBN4-7842-1004-0

大航海時代の日本と金属交易

別府大学文化財研究所企画シリーズ③

平尾良光・飯沼賢司・村井章介編

最新の鉛同位体比分析の成果から、日本の銅生産や中世～近世日本の金属流通のありよう、南蛮貿易の意義などに新たな視角を提示する。巻末に戦国時代関連資料の鉛同位体比一覧を掲載。
▶B5判・224頁／本体3,500円(税別) ISBN978-4-7842-1768-7

住友の歴史 [全2巻]

朝尾直弘監修／住友史料館編

近世初頭から銅の精錬を業とし、その後金融・貿易などをも手がけ、近代の財閥につながる豪商の一典型である住友の歴史をわかりやすく紹介。連続と受け継がれる住友精神の源泉がここにある。
上巻▶A5判・286頁／本体1,700円(税別) ISBN978-4-7842-1703-8
下巻▶A5判・322頁／本体1,700円(税別) ISBN978-4-7842-1762-5

近世鉱山社会史の研究

荻慎一郎著

鉱山社会史研究の視点から、従来の研究で欠落していた支配・経営構造、技術受容と生産体制、労働組織、鉱山法や住民の社会生活などの実態を大葛金山・院内銀山などの一次史料を通して明かす先駆的な業績。第7回高知出版学術賞受賞。
▶A5判・640頁／本体12,800円(税別) ISBN4-7842-0900-X

伝統産業の成立と発展 播州三木金物の事例

桑田優著

兵庫県三木市の伝統産業、三木金物は近世後期に勃興し、現在にいたっている。本書は、流通機構の発達など社会的な背景にも着目し、三木金物が特産品として全国市場へ進出してゆく過程を跡付ける通史。
▶A5判・302頁／本体6,500円(税別) ISBN978-4-7842-1523-2

近世長崎・対外関係史料

太田勝也編

「長崎御役所留」(国立公文書館内閣文庫所蔵)・「長崎諸事覚書」(同)・「長崎記」(東北大学附属図書館狩野文庫所蔵)・「長崎旧記」(筑波大学附属図書館所蔵)の4点を収める。「長崎御役所留」は、長崎奉行所に受け継がれてきた文書・記録類の編纂物であるが、この現存史料としては唯一。
▶A5判・728頁／本体16,000円(税別) ISBN978-4-7842-1362-7

対外関係と文化交流 [オンデマンド版]

田中健夫著

中世日本の東アジアへの対応、足利義満の外交の特質、勘合制度の実態と性格、琉球王国の国際的位置、島津氏と琉球との関係、さらに近代に及ぶ対馬の藩政と朝鮮修好との関係など、中世から近世に至る日本の東アジアを中心とした対外関係と文化交流に光をあてる。
▶A5判・690頁／本体13,800円(税別) ISBN978-4-7842-7009-5

日本産業技術史事典

日本産業技術史学会編

明治維新以降、めざましい発展を遂げてきた近代化の歩みを支えた産業技術の変遷を跡づけ、日本の産業技術史を俯瞰する。大項目には3ないし4頁の総説をおき、日本産業技術の流れを把握することができる「読む事典」。
▶B5判・550頁／本体12,000円(税別) ISBN978-4-7842-1345-0

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。